熊本六街道 豊後街道

肥後藩の参勤路―豊後街道

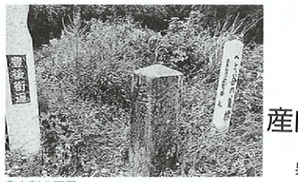
豊臣秀吉の天下統一から江戸時代を通じて、参勤交代路として加藤・細川両氏が利用したのが、熊本城（札の辻）―大津―二重峠（ふたえのとうげ）―内牧―笹倉（以上肥後国内）―久住―野津原―鶴崎（以上豊後国内）を通る豊後街道。古くから畿内・瀬戸内、そして本州との文化・経済交流のルートとして重要視されていた道で、清正公は天草領と交換に豊後国内に久住・野津原・鶴崎という所領を拝領し、この道を確保したといわれる。

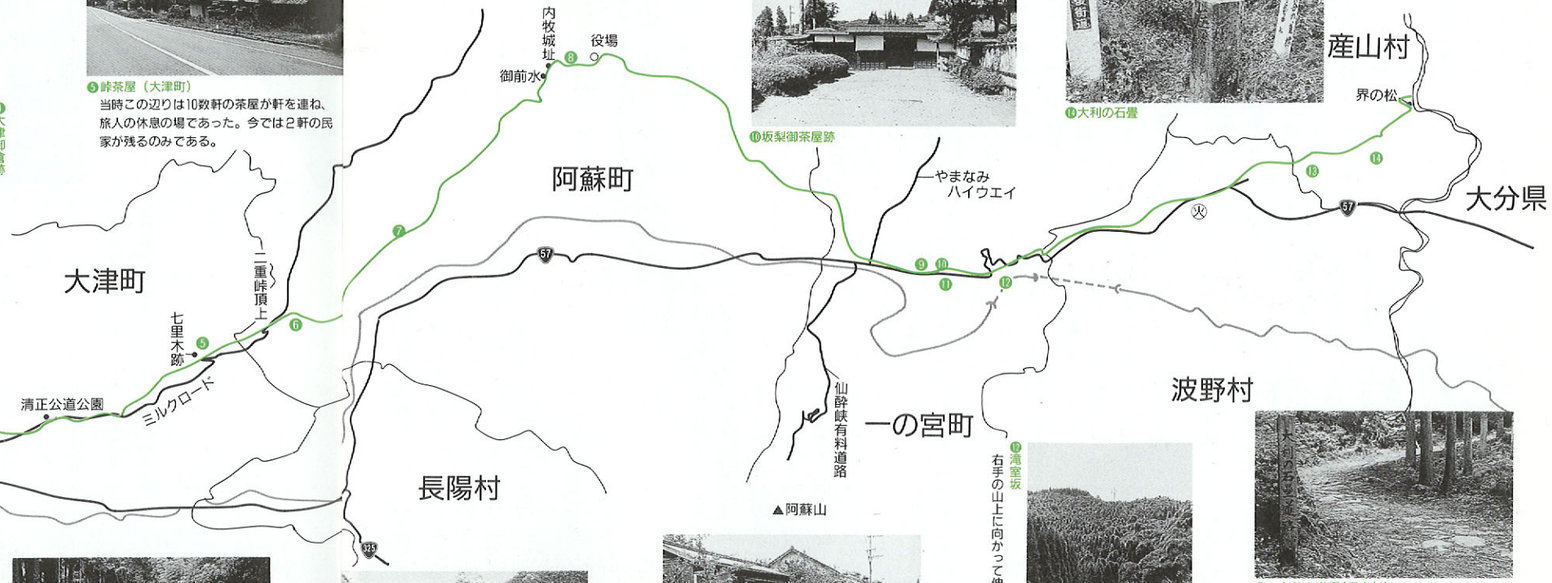
参勤交代は鶴崎より藩の御座船「波奈之丸（なみなし）」で海上百二十八里、東海道百三十三里、豊後街道三十一里を含め、全行程二百八十八里―三十五～六日がかりの旅であった。

⑧内牧御茶屋跡

⑨坂梨の街並

⑩坂梨御茶屋跡


⑪大利の石畳



⑪坂梨番所跡辺り

⑫滝室坂
石手の山上に向かって伸びる急坂

⑬ヘキ谷の道標（産山村）
参勤交代の侍に無礼打ちされた巡礼女の慰霊供養と道標として建立された。道路改修時の移動の際、道標の下りよりお経を1石に1字ずつ書き込んだ石が出土。現在、同村教育委員会に数個が保管されている。

緑陰みごとな大道―大津街道杉並木

国道57号線を阿蘇方面へ向かうと、加藤清正が整備したと伝えられる「大津街道杉並木」が残っている。武蔵塚から菊陽町入道水踏切（にゅうどうみずぶみ）までの九キロメートル。当時の道幅は、現在の国道にJR豊肥線の通る敷地を加えた約三十四～四十メートルにおよぶ。

この広大な街道に植えられた杉は、清正が「一枝を折らば一指を斬る（略）」と触れ書きを出すほど整備・保護に努め、二重峠の西、鍋ヶ谷には補植用の杉育苗所も設けられていた。

一説には、杉並木の整備は攻め入ってきた敵を樹木に隠れて撃退するため、木を道に切り倒し敵の進路をふさぐためとも言われる。道が広ければ当然敵が攻めやすい。そのため、菊陽町枯木新町では急に幅員減少し、その手前に屯田兵の居住地（鉄砲小路）を作るなど、様々な防衛の工夫がうかがわれる。

明治の初め、大部分の杉が切られてしまったが、両脇に立ち並ぶ大杉は、街道に風情をそえるとともに、夏は緑陰をつくり、冬には積雪を防ぎ、当時の旅人に旅の便と安らぎを与えていたのだろう。

山越えの急坂―二重峠

街道は、大津から二重峠へ向かう。阿蘇の山道は急坂で、しかも火山灰土のため、雨のたびごとに道路の損傷がひどく、道普請に労力を要した。そのため石畳で整備された道が多い。二重峠の頂上から坂下部落までの九十九（つづら）折れの急坂約二キロメートルにも、先人の英知と労苦を尽くした見事な石畳が保存されている。峠を約一〇〇メートルほど下った一枚の石畳に「岩坂村つくり」と刻まれている。およそ三里程も離れた岩坂村から道普請にかり出された村人が、苦役の慰めにと刻んだ落書きであろうか。

外輪山を借景に―的石御茶屋

坂を下りきり、的石御茶屋へ。藩主の昼食・休憩のための茶屋で、湧水をめぐらせた庭園、藩主が休んだ部屋など、ほぼ昔のままの姿を留めている。

この茶屋は、元大友氏の家臣小糸氏の住居を、細川綱利公が庭の山茶花の美しさに魅せられて召し上げ、御茶屋として整備したのだという。特に御居間（おいのま）（藩主が休んだ部屋）から眺める庭は、竹林の向こうに遠く外輪山を借景し、その美しさを誇っていた。現在、竹林は高い杉木立ちに変わり、外輪山の姿を望むことはできない。

坂梨に坂有り―坂梨から滝室坂へ

一の宮町坂梨の町中を街道は進む。江戸時代、坂梨には番所があり、道ゆく旅人を取り締まっていた。特に「入鉄砲に出女」と言われ、江戸から大名の奥方が領地へ逃げ出すのを厳しく監視していた時代である。坂梨番所も例外ではなく、女人の調べは厳しく「女改部屋（おんなあらためべや）」があったと言われる。

その番所を過ぎると、滝室坂の難所が待ち構えている。谷底から外輪山へと標高差約二〇〇メートルを一気に越えてゆく坂は峻険で、「大坂に坂無し坂梨に坂有り」との里言が伝えられている。また、参勤交代のお供で坂梨まで来た肥後藩の侍が、その急坂に驚き「坂なしでこれほどの坂なら大坂の坂は如何か」、と前途を案じて切腹したという笑話も残されている。

街道は坂の上から現在の国道を波野村笹倉に至り、左折して産山村へと入る。江戸時代の趣きを残す大利の石畳、飛瀬の石畳を経て平坦な草道が続き、県境「界（さかい）の松」に至る。

今年七月二日の水害で破損も大きいが、全国でも屈指の保存・整備が行き届き、街道沿いには、歴史の道にふさわしい逸話・史跡が数多く残されている。

⑤峠茶屋（大津町）
当時この辺りは10数軒の茶屋が軒を連ね、旅人の休息の場であった。今では2軒の民家が残るのみである。

④大津御倉跡
大津は阿蘇方面からの年貢米集積地でもあった。上井手にかかった多くの水車が精米をしていたという。また、水車でひいた米粉から大津名産銅鉄糖が生まれた。

②大津街道杉並木
加藤清正が整備したといわれる。現在、菊陽町から大津町西方の入口にかけて、見事な大杉が昔の面影を漂わせている。

③鉄砲小路（菊陽町原水掘川）
半兵半農の屯田兵（鉄砲隊）の居住地。約2間幅の道路を挟んで、南側に収納小屋、北側に居住が15間間隔で整然と、豊後街道に平行して立ち並んでいる。

①現在も残っている二里木の里数木

⑥二重峠石畳
水はけのための水切りが石畳を横切っている。

「岩坂村つくり」と刻まれている石畳の石

⑨庭から望む的石御茶屋御居間
二重峠下の藩主の休憩所。

（参考文献）熊本県歴史の道調査 豊後街道 昭和57年3月 熊本県教育委員会発行
お問い合わせ
熊本県教育庁文化課
TEL(096)383・1111